

幼小中一貫教育研究だより Vol.13

幼小中一貫教育をより発展させるために、**レジリエンスの育成をめざした**取組をしています。

やっさんねんだるまつり(3年生)

(3年担任)

丸子英美
太田祐介

子供の挑戦

子供のつまずき

子供の努力

を支える教師のマインドセットを大切にした実践です 

【子供の姿・学びのストーリー】



【教師の思いや願い ～「やりたい!」は学びの原動力～】

子供たちの「やりたい!」という思いをもとに、一緒に学びを進めてきました。そのような思いが胸にあるからこそ、レジリエンスが発揮され、最後まで粘り強く取り組んだり、人と協働したりすることができると思っています。そのような姿が生まれてくることを願い、次の2つを大切に単元づくりを進めました。

①【出会い】ほんものをつなぐ。(人やモノ)

子供たちは、ほんものと出会うと心が大きく動きます。「かっこいいな。」という強い尊敬や憧れは学びの原動力となり、様々な挑戦を支えました。

②【ゴール】6年生の心をつなぐ。

「6年生を笑顔にする」という明確なゴールを子供たちと設定することで、活動の見通しをもつことにつながり、「やりたい!」という思いをゴールまで持ち続けることができました。



①ほんものとの出会いから「やりたい」へ

社会科の学習で三原市について学ぶ中で、子供たちは三原市に受け継がれてきたやっさ踊りや地方(伝統的な音楽)、そして願いを込めて作られる三原だるまの存在を知りました。「ほんものを見てみたい。」という声を受け、三原市歴史民俗資料館を見学しました。実際のだるまや祭りの写真、資料を前に、子供たちは地域文化が長い年月をかけて受け継がれてきたことを実感しました。この体験をきっかけに、「自分たちでもやりたい!」という思いが生まれました。

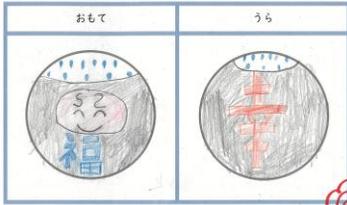
三原だるま保存育成会青年部会の皆様を講師として行った面相書き体験では、目の大きさや眉の角度を工夫しながら、伝統の形を大切にしつつ自分の願いを込めようとする姿が見られました。だるまに込められてきた人々の思いに触れ、それを受け止めながら表現しようとする姿へとつながっていきました。

また、三原やっさ踊り振興協議会の皆様を講師として実施したやっさ踊り教室・地方教室では、やっさ祭りの歴史や受け継がれてきた思いを学び、実際に声を出し、体を動かしてみました。繰り返し行っていく中で、互いの動きや音を意識し合う姿が広がりました。仲間と呼吸をそろえようとする姿勢からは、祭りが人と人をつなぐことを、身体を通して受け取っている様子がうかがえました。

ほんものに触れ、実際に体験する中で、子供たちは三原の文化を「自分たちに関わるもの」として受け止めていきました。知識として知る学習から、思いを受け取り、自分なりに表そうとする学習へとなっていました。



中学校で先生にしねという賞持ちをこめてくらは さんが好きな色でかぶつがいまし。



② 6年生さんを笑顔にしたい!

「6年生さんを笑顔にするために、どんなことをしたい?」と子供たちに聞くと、「オリジナルのだるまをつくらせて渡したい!」「やっさまつりのベストスマイル賞みたいに、～賞をつくりたい!」など、様々なアイデアが出てきました。それらを作ることが決まった際には、さわやか班の6年生さんに好きな色や好きなものをこっそりと聞きに行っていました。

「班をまとめてくれてありがとう。」という感謝の気持ちや、「これから幸せでいてね。」「ずっと笑顔でいられますように。」という願いを込め、6年生さんの笑顔を思い浮かべながら、だるまやたすきをつくる時間は、クラス中に温かい空気が流れていました。

6年生を送る会当日、6年生さんにだるまとたすきを渡すと、「ええっ。」と驚く姿や、「ありがとう。」と声を掛けてくれる姿がありました。

6年生の笑顔を見たときには、「うれしかった。」と喜びを感じたり、「がんばってよかった。」と達成感を得たりしていました。さらに、「また誰かを笑顔にしたい。」という声も聞かれ、自分たちの行動が人の心を動かすことを実感している様子がかげがえしました。相手を思って工夫した経験は、子供たちの中に確かな自信として積み重なっています。

たすきをわたす時「いつもありがとう。中学こうもがんばってね」と言ってくれたら、彦頁で「ありがとう。」と言ってくれようと思った。休みの時自分がわたしたたすきをつけて休んでおいてわたしをみつけてくれたたすき。きにはよありがとうと言ってくれてあげてよかったなと思った。



プレゼントをわたす時に「いまままでありがとう」と言ったら6年生さんが笑顔で「ありがとう」と言ってくれたのでとてもうれしかったしよろこんでくれてがんばって作ってよかったなと思いました。



【教師の思いや願い ～「やりたい!」は学びの原動力～】

子供たちの「やりたい!」という意欲は、常に強く燃え続けるものではなく、活動の中で揺れ動くものです。だからこそ、心が大きく動く【出会い】をつくり、思いを具体化する【ゴール】を子供たちと共有することを大切にしてきました。

ほんものとの出会いが憧れや尊敬を生み、「やってみよう」という火種を生み出します。そして、「6年生の笑顔」という明確な目標が、火を絶やさず支え続けます。

私たち教師は、子供たちの内側に生まれる小さな火を見つけ、守り、ときに風を送りながら育てる存在でありたいと思っています。子供たちの「やりたい!」が原動力となり、自分自身、そして、誰かの幸せへとつながっていく学びを、これからも共につかっていきたいと願っています。

幼小中一貫教育研究だより(カラー版)

幼小中一貫研究だよりをご覧いただきありがとうございます。学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「幼小中一貫研究だより」URL https://www.hiroshima-u.ac.jp/fp_mihara/R7kenkyudayori

幼小中一貫教育研究だよりのアンケートにご協力ください

幼小中一貫研究だよりをご覧いただきありがとうございます。子供たちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL <https://forms.office.com/r/NcyaJhnhN4>